

自ら学びとる力の基礎につちかう生活科の実践的研究

— 子どもの体験的な活動を通して —

目 次

I	研究テーマ設定の理由	27
II	研究の基本的な考え方	28
1	自ら学びとる力の基礎を養うことの大切さ	28
2	体験的な活動と教育的機能	28
III	生活科へのあゆみ	29
1	生活科へのあゆみ	29
2	目標及び内容	30
3	生活科の評価	31
4	幼稚園と小学校低学年との関連	33
5	生活科と低学年社会科	34
IV	生活科の年間指導計画（第2学年）	37
1	年間指導計画作成にあたって	37
2	単元配列の視点	37
3	第2学年生活科単元計画（私案）	38
V	生活科の授業実践	40
1	単元名「2の2ゆうびんきょく」	40
2	単元の目標	40
3	単元について	40
4	単元の構造図	41
5	単元活動計画	42
6	活動計画案 1～6	44
7	授業の実際	45
8	授業メモと評価	49
VI	実践研究の成果と今後の課題	50
	主な参考文献	50

浦添市立宮城小学校教諭

与儀啓子

自ら学びとる力の基礎につちかう生活科の実践的研究

—— 子どもの体験的な活動を通して ——

浦添市立宮城小学校教諭 与儀啓子

I テーマ設定の理由

「先生、白い花がさいているよ。首かざりも、ゆびわも、かんむりも作れるよ。作ろう、作ろう。」
「今、社会の勉強でしょう。はい『みんなてつかうもの』を見つけましょう。」「先生、砂場はみんなて使う所です。みんなで砂遊びをしよう。」

これは、低学年の子どもと先生に見られる会話のひとつである。子どもたちは、社会科の時間だから、いつも社会事象に興味・関心を示すとは限らず、自分の興味・関心から身近な社会のようすだけでなく、自然のようすにも目を向け、遊びの中から子どもなりに一体的にとらえた上で、自発的に学習をしようとしている。

ところが、子どもの遊びを見ると、ファミコンのような個人的で、人工的な生活が次第にふえてきて、自然や友だちとの触れ合いがきわめて少なくなり、子どもの生活であるはずの遊ぶこと、遊びを通して学ぶこと等が、子どもたちから次第に失われつつある。

また、ここ数年らい子どもたちの生活リズムについての教師による「生活点検」の結果から子どもたちの基本的な生活習慣や生活技能の不足が目立っている。

今、このような子どもたちの実態に即した対応が求められてきている。これまでの教師主導の細切れな授業実践を反省し、児童に生活の中で自然に触れ、積極的に遊ぶこと、遊びを通して学ぶことの体験をさせ、生活のなかに生きてはたらく力を育てる必要があると考える。

昭和62年12月、教育課程審議会答申により新教科として生活科が設けられることになった。生活科のねらいは、「具体的な活動や体験を通して、自分と身近な社会や、自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において、生活上必要な習慣や技能を身につけさせる自立への基礎を養う」とある。すなわち、見る・調べるなどの具体的な活動や体験を通して思考するという、低学年の児童の発達上の特徴を重視したことにある。

子どもの発達上の特徴をとらえた上で、自らの課題を解決して行こうとする追究力の素地につちかうために、必要な内容・方法を身近なところから精選し、体験を重視した活動を進めようというのである。子どもの生活の中に生きて働く知識となるものは、自分で体験し、経験した中から得られたものが多いと思う。

そこで研究仮説として「子どもの身近な社会や自然の学習指導において、子ども自らはたらきかけることのできる具体的な活動や体験を重視した学習活動を組織し、展開すれば、主体的に活動（学習）しようとする意欲は高まり、自ら学びとる力の基礎が育つであろう。」を設定した。

作る・育てる・遊ぶなどの具体的な活動を行ったり、それを言葉・絵・動作化・劇化などの表現活動を重視する学習は、子どもたちの見方・考え方を育てる力になると考える。そのことが子どもたちの意欲的な学習態度の育成につながり、自ら学びとる力の基礎につちかう生活科となると考え、本テーマを設定した。

Ⅱ 研究の基本的な考え方

1 自ら学びとる力の基礎を養うことの大切さ

学びとる力とは、「学んで、自分のものとするのできる力」（広辞苑 新村出編）とある。それを受けて、「ある問題場面に直面したときに、自分の力で、自分が主体となり、問題を解決していくのできる力」を、「自ら学びとる力」と理解している。

これまで、子どもに「いかにわからせるか」を念頭において実践することが多かった。ところが、教えられるだけでは真の学力は身につけてこない。子どもの側の意欲を引き出し、主体的に学習を進めていかないと、わからせることは、大変困難である。意欲を持って学習に参加しているときは、学習は、子どもたち自身で、どんどん進め、理解を容易にしていくものである。

では、子どもたちが、主体的に自ら学習を進めるためには、教師としてどのような手だてをすれば良いかが、大切な課題である。子どもたちが何を学び、どう問題を解決していったら良いのかという道筋を、学年の発達段階に応じて、身につけさせてやるのが大切である。

低学年の子どもたちは、具体的な活動の中で、自ら進んで行動し、自らの経験を通して納得し理解していくものである。そこで、自らの判断にもとづいて行動できるような生活ができる基礎をめざして、活動的な体験をさせる必要がある。低学年の子どもにたいしては、体験的な学習を重視し、身体表現をともなった学習活動を取り入れることによって、子どもの興味・関心を高め学び方を定着させ、学びとる力の基礎につちかう生活科につながると考える。

2 体験的な活動と教育的機能

体験的な活動を取り入れた学習は、身体表現や身体活動を取り入れるので、子どもたちは意欲的に取り組んでいく。それは、学びとる力の育成につながり意欲的に追究する態度が育てられると考える。

このように、低学年の子どもたちの発達段階からみて、体験的な活動をすることから疑問や思考が生まれ、解決の糸口をつかむものである。

(1) 体験的な活動の教育的特性

- ① 実際の場合や、地域の中で、体験的な活動を通して得た知識や技能は、子どもたちの見方、考え方を育て、思考力を伸ばすものである。
- ② 体験的な学習を通して興味・関心が高まり、人間性を高め、実践力がつき、自己教育力を養う基礎となり生涯学習へもつながるものである。
- ③ 体験的な学習を通じた学習をするうちに、既存の経験や知識を働かせ、創造性豊かな思考力感性豊かな表現力が期待できる。

(2) 体験的な活動方法と教育的機能

- ① 自然と触れ合う体験的な活動——観察能力と感性の育成につながる学習。
- ② 具体物によって五感を働かせた学習や体験を積む活動——ものの見方・考え方を育てる学習。
- ③ 見たり、聞いたり、行ったりする体験的な活動——自分と社会事象とかかわりを考える学習。
- ④ 実地に調べたり、資料で調べたりする体験的な学習——意欲の開発につながる学習。

- ⑤ 「ごっこ活動」や「劇化活動」などのような再構成による体験的な学習——その人物の感情や考え、気持ちなどを理解するのに役立つ学習。
- ⑥ 書いたり、作ったりする体験的な活動——表現力や物の製作の基礎を養う学習。

Ⅲ 生活科へのあゆみと目標等

生活科は、低学年の理科と社会科が消えて新しく生まれたものである。理科と社会の合科したものであるというとらえ方ではなく、全く新しい教科という見方、とらえ方が大切である。単元名を見る限りでは、これまでの理科や社会科とよく似ていて、授業展開案を作成する段階では、従来のような知識理解的な設定になりやすいので注意を要する。

生活科は「社会とのかかわり」「自善とのかかわり」「自分自身」という、3つの基本的視点と10の具体的視点とから成り立って、知識理解というよりも態度や技能の育成をねらう教科としての特性がある。

1 生活科へのあゆみ

なぜ、今、生活科なのだろうということをよく耳にする。このような素朴で大事な疑問をもつことは大切である。前述したこともあるが、設置されるまでの経緯をきちんととらえてみることによって、その疑問が解明でき、生活科の教育的な特性や機能について、理解を深め、授業実践に生かすことができるのではないかと思う。

昭和26年に、社会と理科についての見直しの提言がみられる。さらに、昭和40年代から、小学校低学年教育のあり方についての検討の経過を踏まえて構想されたのが生活科である。

(以下新聞や雑誌等からの抜粋)

年	項 目	年	項 目
S 26	★学習指導要領一般編（試案）		的な指導を従来以上の推進
7.10	社会科と理科は一まとめにして指導し 問題解決の経験を発展させる教科……	51.12	★教育課程審議会答申 総合的な活動……合科的な指導の推進
46. 6	★中央教育審議会答申 社会的及び自然的な環境について学習 する新しい教科を設ける必要がある。	52.	★「学習指導要領」 低学年においては合科的な指導が十分 できるようにすること
50. 9	★教育課程審議会 総合的な指導合科的な指導法の推進	58.11	★中央教育審議会教育内容小委員会審 議経過報告
50.10	★教育課程審議会 総合的な内容で取り扱う……教科の編 成も含めて内容構成の改善を図るべき		既存の教科の改廃を含む再構成を行う 必要があるがどのような教科構成が…
51. 2	★小学校指導要領作成のための協力者 会議 総合的な指導のための研究の必要性	60. 6	★臨時教育審議会第2次答申 社会・理科などを中心に、総合化を進 め、児童の具体的な活動や体験を通し 総合的に指導することができるよう…
51.10	★教育課程審議会審議のまとめ 教科の編成を変えることには……合科	61. 4	★臨時教育審議会第二次答申 同上
		61. 7	★小学校低学年の教育に関する調査協

61.10	<p>力者会議の設置</p> <p>① 低学年児童の発達の特徴から活動や……</p> <p>② 体験や活動を通して総合的な指導の……</p> <p>③ 社会認識や自然認識は活動や体験を……</p> <p>④ 基本的な生活習慣や技能を身につける……</p> <p>⑤ 体験によって意欲的に学習する態度……</p> <p>★教育課程審議会（中間のまとめ）「教育課程の基準の改善の基本方向」</p> <p>生活科は、児童が自分との関わりにおいて人々（社会）や自然を捉え児童の生活に即したさまざまな活動や体験を通して社会認識や自然認識の芽を育てるとともに、そのような活動や体験を行う中において自己認識の基礎を養い、</p>	62.7 62.11 62.12	<p>生活に必要な習慣や技能を身につけさせ、自立への基礎を養うことをねらいとして構想するのが適当である。</p> <p>★教育課程審議会生活科委員会報告「生活科の内容構成」</p> <p>★教育課程審議会中間報告</p> <p>幼稚園、小学校中学校及び高校の教育課程の基準の改善について（生活科設定）</p> <p>★教育課程審議会</p> <p>「生活科のねらい」具体的な活動や体験を通して自分と身近な社会や自然との関わりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その課程において、生活上必要な習慣や技能を身につけさせ自立への基礎を養う。</p>
-------	---	------------------------	--

2 目標及び内容

「具体的な活動や体験を通して、自分と身近な社会や自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身につけさせ、自立への基礎を養う。」

(1) 目標

① 「具体的な活動や体験を通して」

これまでは、具体的な活動や体験をしてきたのは、知識・理解を目的としてきた。ところが、これからの生活科は、具体的な活動や体験そのものが目的となる。

② 「自分と身近な社会や自然とのかかわりに関心をもつ」

これまでの社会科や理科は、社会認識や自然認識の知識・理解を目的としてきたが、生活科は、自分自身とのかかわり、自己認識が入ってきたことに大きな特徴がある。

③ 「自分自身や自分の生活について考えさせる」

自分を取り巻く社会事象や自然事象と自分との関係に、興味・関心をもつだけでなく生活のなかで、自分の果たすべき役割や行動のしかたも考えることが出来なければならない。

④ 「活動する過程において生活上必要な習慣や技能を身につけさせる」

これまでは、家庭生活や学校生活全ての場面で、自ずから身につくものだというとらえ方であった。ところが、子どもの実態は「おはしがもてない」「りんごの皮がむけない」とか、

「かたいものが飲み込めない」など、これまでは、生活の中で自然に身につけさせていたことを意図的に、しかも「活動する過程で」身につけさせるということである。

⑤ 「自立への基礎を養う」

これは生活科の究極的なねらいになると思う。もちろん、全ての教科をはじめ道徳、特活なども自立を目指している。しかし、低学年の生活科で体験を通して経験したことが、自立への基礎になるようにすることが大切である。

⑥ 第1学年及び第2学年の目標として、3項目について記述してある。本研究集録P4を参照していただきたい。

(2) 内容

生活科の内容構成は、「自分と社会とのかかわり」、「自分と自然とのかかわり」、「自分と自分自身とのかかわり」という3つの基本的視点からなりたっている。さらに、具体的な視点として10の項目があるが、①～⑨までの全てにかかわる視点として⑩がある。

なお「生活科の内容構成」は本集録とP6を参照いただきたい。

3 生活科の評価

体験的な活動を大切にする生活科の評価のあり方は、細心の注意を要するものである。評価の仕方を誤ると生活科の主旨そのものを逸脱してしまいかねない。知識・理解がねらいではなく、「この活動をやった結果、子どもの姿（生き方）がどれだけよくなったか」という「態度を育てる」観点が大切になる。

生活科が「自分とのかかわり」「自分への気付き」を重視することにあることを考えると、生活科の評価は、「子どもの自己評価」が望ましいと考える。しかし、運動会で「ぼくは1番だったよ」「わたしは2番だったよ」とどの子もみんな1位と2位で、3位以下のいない低学年の子どもたちにどのような「自己評価」が適当か難しいところである。いずれにせよ「生活科」の主旨を尊重して生活科の評価は、進めなければならない。

(1) 生活科の主旨を生かした評価

- ① 根気よく打ち込んでいるか。
- ② 自分や自分の生活に気付いて自分らしく、生き生きとした生活ができるか。
- ③ 社会事象や自然事象に関心を寄せているか。
- ④ 友だちと協力しあいながら学び、身近な人となかよくできるか。
- ⑤ 生活技術や生活習慣が身についているか等。

(2) 「2の2ゆうびんきょく」の評価

- ① 観察（座席表による）
- ② 作品（製作物・表現等）
- ③ 質問紙

（資料1 本単元に入る前のアンケート）
（資料2 座席表によるチェックリスト）
（資料3 本単元終了時の質問紙）
（資料4 本単元終了時の質問紙）

資料 1

ゆうびんをしますか

- 2年()組 なまえ
- 手紙やはがきをかけたことがありますか
 - ある (31)
 - ない (0)
 - ポストにはがきや手紙を出したことがありますか
 - ある (24)
 - ない (7)
 - ゆうびんきょくへ行ったことがありますか
 - ある (22)
 - ない (9)
 - ゆうびんきょくの中で、手紙のしごとをしているのを見たことがありますか
 - ある (14)
 - ない (17)
 - ポストの入口は、いくつですか
 - 1つ (18)
 - 2つ (12)
 - 3つ (3)
 - ポストはどこにありますか
 - 人があまり通らないところ (7)
 - 人がたくさん通るところ (16)
 - 学校のそば (4)
 - わからない (4)
 - ポストの中の手紙とはがきをあつめるのは
 - ゆうびんをくばる人 (15)
 - ゆうびんきょくの人 (14)
 - けいさつの人 (1)
 - わからない (1)
 - ポストの中の手紙やはがきは、なにであつてきますか
 - ある (3)
 - バイクできます (14)
 - 目どろ車 (14)
 - わからない (3)

- きつてのねだんは
 - 近いとやすく高い (7)
 - 小さくて、少ないとやすく大きくて多いと高い (13)
 - う、どんなものもおなじ (8)
 - わからない (3)
- はいたつは
 - 雨の日はぬれるからくばらない (2)
 - 晴れの日でも、風つよい日はくばらない (2)
 - 日よき日でない日は毎日くばります (19)
 - わからない (3)
- ゆうびんごっこをしたことがありますか
 - ある (15)
 - ない (18)
- ゆうびんごっこをするときどんなことがやりたいですか「」に書きましよう
 - はいたつする人 (16)
 - おきやくさん (5)
 - いんかんをおす (1)
 - わける人 (3)
 - きょくの人 (4)
 - 無答 (2)

() 問のべん人数

資料 2

2の2 ゆうびんきょく (1月 13日)

ウツタエ	ウツタ	ウツタ	ウツタ	ウツタ	ウツタ
① 見たらと似た山なだけ、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。	② 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。	③ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。	④ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。	⑤ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。	⑥ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。
⑦ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。	⑧ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。	⑨ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。	⑩ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。	⑪ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。	⑫ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。
⑬ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。	⑭ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。	⑮ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。	⑯ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。	⑰ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。	⑱ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。
⑲ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。	⑳ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。	㉑ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。	㉒ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。	㉓ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。	㉔ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。
㉕ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。	㉖ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。	㉗ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。	㉘ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。	㉙ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。	㉚ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。
㉛ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。	㉜ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。	㉝ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。	㉞ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。	㉟ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。	㊱ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。
㊲ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。	㊳ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。	㊴ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。	㊵ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。	㊶ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。	㊷ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。
㊸ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。	㊹ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。	㊺ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。	㊻ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。	㊼ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。	㊽ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。
㊾ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。	㊿ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。	㊿ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。	㊿ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。	㊿ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。	㊿ 手紙のしご、うまいうい、しうけんめい、い、下っている。

資料 3

なまえ

日置 静香

先生といっしょによみながら、かいていきましょう。
「2の2郵便局」の学しゅうを、ふりかえって

- 学しゅうは、たのしかったです。(はい) いいえ)
- いっしょうけんめい学しゅうしましたか。(はい) いいえ)
- ポストや郵便局、手紙の書き方で、知らなかったことがありましたか。

こんなことは知らなかった
ふ、うとで、60 までとしらなうた。
ポストの、まーが、いくつあるからなうた。

- 「ポスト」をつかったかんそうを、かきましょう。
ぼんものポストみたいでした。
- 「郵便ごっこ」をしたかんそうを、かきましょう。
とうてもおもしろかった。
- 「手紙」を書いたかんそうを、かきましょう。
ちゃんとしていたからよかった。
- ともだちの「ポストや郵便局、手紙の書き方」をみたかんそうを、かきましょう。
こんなところがよかった、こんなところにびっくりした、など。

しょうくんへ
ゆうびんが、きょうにくる
まを、ついていたので、
おんい、ま。

ゆうびんさんへ
あちこちで行ってたいん
そうでした。
とておもしろいとおもいました。

資料 4

なまえ

ひがりえ子

先生といっしょによみながら、かいていきましょう。
「2の2郵便局」の学しゅうを、ふりかえって

- 学しゅうは、たのしかったです。(はい) いいえ)
- いっしょうけんめい学しゅうしましたか。(はい) いいえ)
- ポストや郵便局、手紙の書き方で、知らなかったことがありましたか。

こんなことは知らなかった
マ、フ、は、やく、あ、え、る、た、め、の、ゆう、び、ん、きょ、く、
40 までと、60 までと、あ、ち、か、う。
じ、こ、く、ひ、ま、う。

- 「ポスト」をつかったかんそうを、かきましょう。
ポストをつかったとき、とてもおもしろかったです。
- 「郵便ごっこ」をしたかんそうを、かきましょう。
いんかんを、あ、き、の、さ、と、ま、た、の、
し、か、つ、た、で、す。
- 「手紙」を書いたかんそうを、かきましょう。
わたしは、て、が、み、を、か、い、た、ら、ま、い、も、
し、ら、つ、た、で、す。
- ともだちの「ポストや郵便局、手紙の書き方」をみたかんそうを、かきましょう。
こんなところがよかった、こんなところにびっくりした、など。

けいたくんへ
けいたくんは、なみの、えつ子さんは、いんかんを、
よ、う、な、い、ん、かん、を、た、く、さ、ん、も、つ、て、き、た、の、で、
く、た、の、で、か、さ、し、ま、し、た、ひ、ま、う。

えつ子さんへ
いんかんを、
よ、う、な、い、ん、かん、を、
た、く、さ、ん、も、つ、て、き、た、の、で、
く、た、の、で、か、さ、し、ま、し、た、ひ、ま、う。

4 幼稚園と小学校低学年との関連

幼稚園教育と小学校教育の連続性・一貫性が必要である。幼稚園の遊び中心で内容の区別や時間の制約が全くない活動とは、余りにも段差が大きく子どもたちは、小学校に入学したとたん机に向かって、教科や道徳・特活などに分化された授業を受けることになる。「生活科」を新設する意義の1つに幼稚園と小学校教育とのつなぎを円滑化するということがあるのはそのためである。これからは小学校低学年については「遊び」も「勉強」という見方をしなければならない面がでてくると思う。「遊ぶ」ことを通して子どもたちは多くのことを体験し、多くのことを学んでいるのである。子どもたちにとって「遊ぶこと」は即「勉強」だという見方は適切であると言えよう。

しかし、小学校では長い間、いや、おそらく学校制度が始まって以来「勉強時間」「遊び時間」というふうな「勉強」と「遊び」は、全く別のものだと考えられてきたのではなかろうか。

この度の生活科の授業を計画する段になり、なかなか遊びを取り入れた計画が立たない。遊ぶすということとはむずかしく感じられてならない。

「遊び即、勉強」というとらえかたは、「はい回る経験主義」にならないように、と言われることとの関連で、どう遊ばせてよいものやらとまどうことばかりである。そこで、幼稚園の研究発表会に参加したり幼稚園教育要領を読んだりした。園児が自分で自分の遊びを見つけ真剣な眠差して、しかも楽しそうに、生き生きと取り組んでいる姿に「生活科のあり方」を見た思いがした。

生活科の展開は幼稚園の活動方法が大変参考になり、「主体的に」「個にあった」「自ら学びとる」という、わたしがこれまで取り組んできたテーマにせまるものだと考える。

第一に、「生活科」の学習内容に社会や自然とのかかわり及び自分自身という要素が含まれているので、活動はそれらに関連させながら総合的に展開する。1校時、2校時と細分化しすぎる現在の授業の形態でなく、もっと総合的に展開する必要があるからである。

第二に、「生活科」の活動は、学校内外における物や人、事象などとの直接的な触れあいや体験があり、これらを45分という単位区切りの活動ではねらいを十分達成できない場合が多い。そこで2時間、3時間と続けて体験や製作、表現を伴う展開がなされてもよいと思う。幼稚園では登園から降園までの保育活動が、この展開方法である。

第三に「生活科」の活動で幼稚園に学ぶことは「個々の幼児の自発的な意志による活動」を大切にしていることである。幼児の興味・関心・意欲を重視した活動を展開している。どちらかといえば、共通目標の達成に力点を置きながらも「個にあった」だの「自ら学ぶ」だのといってきたこれまでの授業を反省させられる。「生活科」では究極的に共通目標を身につけさせるとしても、そのプロセスにおいては、個々の子供の願いを生かす活動が展開されなければならない。

この意味で、「生活科」の学習方法は幼稚園の活動に近い性格をもっているといえよう。そうすることによって、子どもたちもすんなりと小学校にとけ込むことができるようになると思う。

5 生活科と低学年社会科

昭和63年度に発表予定の新教育課程に基づく学習指導要領（案）が平成元年2月10日発表された。日本教育新聞によると新学習指導要領の正式告示の予定は平成元年3月10日で、移行措置に関する告示は3月下旬になるという。正式に告示されていない現段階ではあるが、移行期の取り組みを新聞や月刊誌等から整理すると「（1）移行期間の取り組み」のようになる。

（1）移行期間の取り組み

1989年（平成元年）		1990年（平成2年）	1991年（平成3年）	1992年（平成4年）
				全面実施
				生活科の教科書
1年	生活科の主旨を取り入れた、理・社の合科的指導	理・社の内容を一部カットして合科的な扱いで一体的に指導（生活科）	理・社の内容を一部カットして合科的な扱いで一体的に指導（生活科）	生活科全面実施
2年		生活科の主旨を取り入れた理・社の合科的指導		

- ① 平成元年度は1年生の「生活科」の年間指導計画を立てつつ、1年・2年ともに生活科の主旨を取り入れた社会科・理科の合科的指導を進める。
- ② 平成2年度からは、1学年においては生活科としての実質的にスタートする。社会科・理科の内容を一部カットして合科的な扱いで一体的に指導する。
- ③ 平成3年度からは、1学年・2学年ともに実質的には生活科になる。
- ④ 平成4年度から、新指導要領の全面実施となる。

さらに生活科に関する「研究推進校」向けに文部省から「生活科研究の視点」としての資料が出されているのを見て、その中に示されている「生活科の参考例」と、今回の「新学習指導要領」の目標や内容を基にしてこれまでの社会科との関連を調べてみた。

生活科は社会科と理科の合科ではないとはいえ、平成元年度から移行期間になることを考えると、どうしても社会科や理科との関連をみなくては移行期間の計画が立てられない。

そこで、ここでは「（2）生活科と低学年社会科」について、その関連を調べ、両者の関係を把握したい。

Ⅳ 生活科の年間指導計画（第2学年）

1 年間指導計画作成にあたって

(1) 基本的な考え方

生活科の年間指導計画作成する時の留意点として、

- ① 生活科は、低学年の理科と社会科の合科されたものでなく、全く新しい教科である。
- ② 生活科で「何を教えるか」ではなくて「何を育てるか」ということである。
- ③ 社会や自然を可能な限り、一体的にとらえて学習を進める。
- ④ 「自他の変容」という心の教育を求めながら、同時に、「基本的生活習慣・技能」の定着も体験を通すことによって目指すものである。
- ⑤ 活動や体験を豊富に取り入れることから安全に気を付けるようにする。
- ⑥ 家庭や地域の人々の協力が得られるようにする。
- ⑦ 合科的な指導を取り入れる。
- ⑧ 第1学年と第2学年の関連を密にする。
- ⑨ 生命尊重の立場から、生き物の管理を適切に行うようにすることである。

また、生活科の目標や内容が、自己の周辺にあるものを素材にして経験的に取り扱うことから、学校を取り巻く環境をいかに生かすかが重要課題となる。学校周辺の社会環境・自然環境を調査・分析し、そこから教材となりうるもの、人材として活用できる人を選び出す必要がある。そのような教材や、人材を生かすことが、即、地域を生かした独自のプランができあがることにつながる。浦添市には、国際センターもあり、外国から多くの人が研修にきているので「国際性」に関する単元も考えられる。

(2) 学習環境の見直し

子どもの体験や活動を重視するということは、教室の中だけでなく、学習の場をより広く考えることである。校舎や校舎周辺の学習環境の見直しや、家庭科室・理科室などの効果的な運用が考えられる。教材園や学級園・飼育・栽培小屋なども、新しい観点に立った学習環境の整備が必要である。

2 単元配列の視点

- (1) 学期初めは、学級または学校への適応にかかわる単元を位置づける。
- (2) 自然・季節・地域・行事・遊びにかかわる単元を、それぞれの時期に合わせて配列する。
- (3) 活動が家庭・学校から地域へと広がり、連続的に発展するように単元を構成する。
- (4) 低学年なりの問題解決的学習により、自然認識、社会認識、自己認識の芽が育つようにする。
- (5) 学習時間は、1週3時間、1年生が年間102時間、2年生が105時間であることを留意する。
1週3時間は、1時間ごと、2時間と1時間、3時間連続などと柔軟な運用を考える。他教科との合科も含め、柔軟な対応を考え構成する。
- (6) 調査・製作・飼育・栽培など、低学年の特性を踏まえながら構成する。

3 第2学年生活科単元計画 (私案)

内容選択の視点	1 学 期					9					
	月	4	5	6	7						
⑤ ④ ③ ② ① 健康で安全な生活 身近な人々との接し方 公共物の利用 生活と消費 情報の伝達 ⑩ ⑨ ⑧ ⑦ ⑥ 身近な自然との触れ合い 季節の変化と生活とのかかわり 物の製作 自分の成長 基本的な生活習慣や技能(全ての題材にかかわる)	単元	(1)校区をたんけんしよう		(2)生き物を育てよう	(3)うちの買い物	(4)秋をさが					
	単元名	①一年生を迎える会	②宮城公園の春	③学区の遊び場	①サンニンを植えよう	②雨の日の探検	③小川の生き物	④サンニンの世話	①うちの買い物	①宮城公園の秋	②虫を育てよう
	時間	3	2	4	6	6	7	6	6	3	6
	子どもの姿	一年生を迎えパーティーを楽しむ子 自分の町の人々に関心を持つ子 遊び場に合った遊びのできる子 友だちと仲良く遊ぶ子			サンニンを大切に世話する子	天候と自分の生活に関心を持つ子	小動物を大切にしようとする子	水やりや草とりのできる子	働く人の苦勞のわかる子 マナーに気を付けて買物ができる子	小動物を大切にする子 自然や人々の様子のわかる子	
	内容選択の視点	② ⑤ ⑨	① ② ③ ⑤ ⑥ ⑨		⑥	① ⑥ ⑦	⑥	⑥	② ④ ⑧	① ② ③ ⑥ ⑦	⑥
	合科の工夫	特活	図工・道徳		国語	音楽	体育	国語	図工 算数	図工	体育・音楽

2 学 期					3 学 期											
10		11		12	1		2		3							
そう	(5) 2 の 2 ゆう びんきょく			(6) みんな 友だち	(7) バスで出 かけよう		(8) ムーチャーを 作ろう		(9) わたしの アルバム							
③サンニンを育てよう	①ポスト作り	②郵便局たんけん	③ゆうびんごっこ	④お礼状を出そう	①国際センター	②外国の友だち	①バスで働く人の仕事	②バスごっこ	①ウニムーチャー	②サンニンの取入れ	③ムーチャー作り	④ムーチャーパーティー	①赤ちゃんのころ	②アルバム作り	③アルバムの発表会	
3	3	2	2	2	4	6	4	5	4	2	2	3	2	6	3	
サンニンを大切に世話する子	身の回りに関心を持つ子			働く人々に感謝の気持ちを表す子	地域施設に関心を持つ子		外国のことに関心を持つ子	安全に気を付け正しく利用する子	地域の行事に関心を持つ子		幼稚園生を迎えパーティーを楽しむ子		自分の成長を支えてくれた人がわかる子		必要な資料を集めて表せる子	いろいろできるようになった喜びのもてる子
⑥	④ ⑤ ⑧	① ② ③ ④ ⑤		② ③ ④ ⑤	② ③ ⑤	② ③ ⑤	① ② ③ ④	① ② ③ ④	② ④ ⑥ ⑦ ⑧	④ ⑥ ⑦	① ② ④ ⑦ ⑧ ⑨	① ② ⑤ ⑧ ⑨	② ⑨	② ⑨	① ② ④ ⑧ ⑨	
国語	図工	国語・道徳		国語	音楽	特活	道徳	図工	国語	国語・算数	国語	国語・特活	国語・道徳	図工	国語・図工	

V 生活科の授業実践

1 単元名 2の2ゆうびんきょく

2 単元の目標

手紙で遠くの人に必要ことや、自分の気持ちを伝えることがわかるとともに、自分の手紙を郵便局の人が確実に届けてくれる苦労や工夫がわかり、郵便ごっこをして、伝達手段としての手紙に関心を持つことができる。

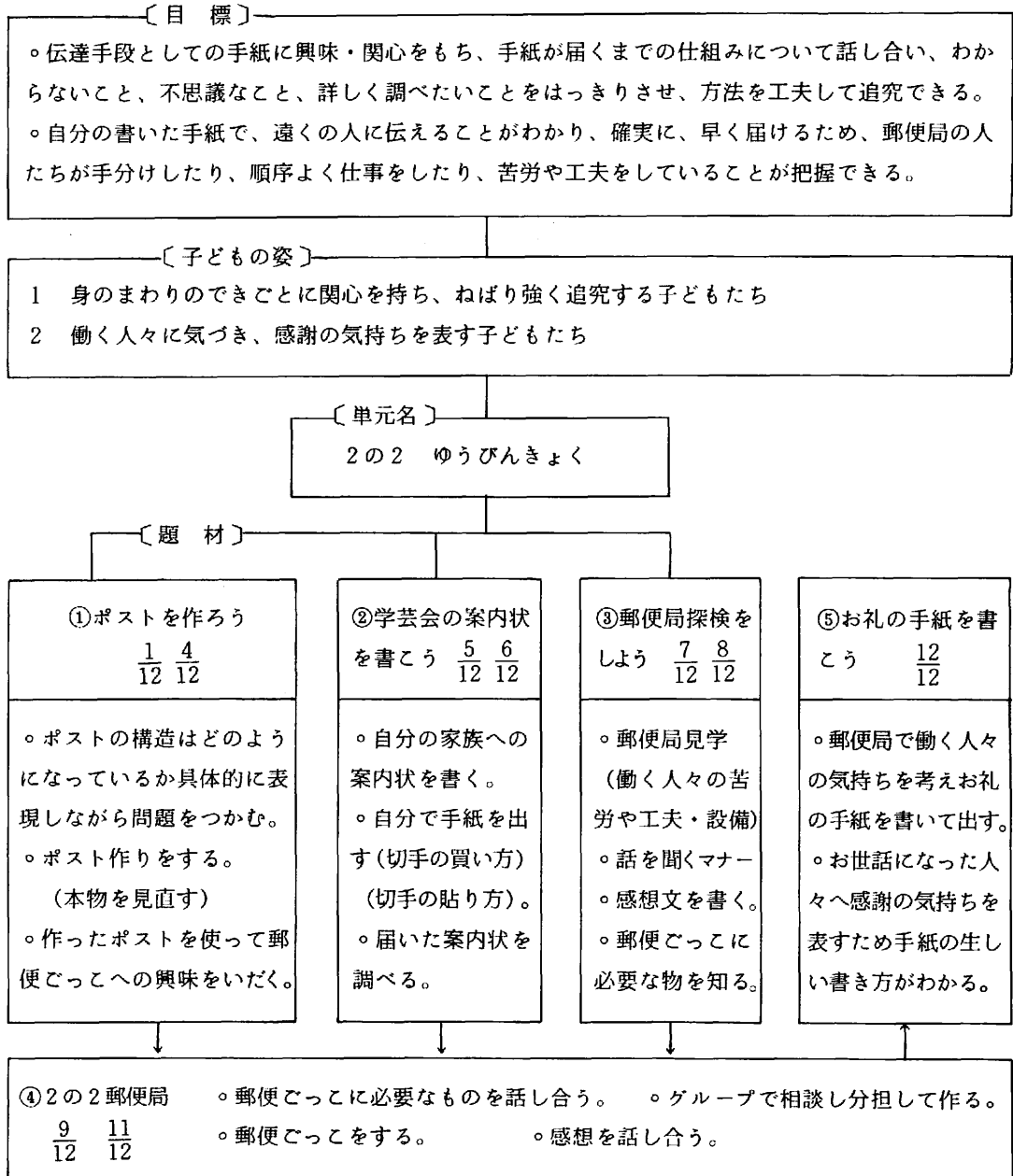
3 単元について

- (1) 生活科は、具体的な活動や体験を通して、見る・調べる・作る・探す・育てる・遊ぶことなどを重視している。これまでは、指導する目標や内容を前提にして、それをどのような方法で指導するかを考え、その目標を達成するために活動や体験を取り入れていた。ところが、生活科は子どもたちに、どのような活動や体験をさせていくか、ということが前提になる。活動を行う過程で、子どもたちにどのような態度や能力が育っていくのか、という発想が生活科指導には必要である。本単元の活動は、伝達手段としての手紙や郵便局の人々の働きに関心を持ち感謝の気持ちを持って協力しようとする態度を育てるのに適切であると考えられる。
- (2) これまでの社会科でも、いろいろな活動や体験を取り入れてきた。しかし活動や体験は、知識や技能の理解や修練のための手段であった。生活科は活動や体験・遊びそのものを目的としてとらえるところに大きな特色がある。本単元では、「2の2ゆうびんきょく」のごっこ遊びを目的にし、ごっこ遊びを成功させるために、郵便局見学も取り入れたい。
- (3) 筑波大学附属小学校教諭の有田和正先生の「ポストづくり」の授業も、体験的な活動を行う過程で、問題を発見し、それをねばり強く追求しようとする態度を育てる授業実践であり、生活科の授業展開の一方法であると考えられる。「ダンボール箱などでポストづくりをさせていく過程で、いかに本物を見ていないかに気づかせ、本物を見直さなければならない必要感をもたせて、何度も見直しをさせながら本物のように作らせていく。そしてポスト一つでも、正確につかむことがいかに難しいことに気づかせる」（写真で授業を読む 有田和正 明治図書 P47）と述べ、さらに目標においては、「観察したことをもとにして、友だちと協力しながら、本物のようにポストづくりを工夫したり、できたポストを使ってごっこ活動をしたりして、活動の楽しさを味わわせるとともに、その活動の過程で新しい問題を見つけ、それを、ねばり強く追求する態度を育てる。」とある。目標や活動からみても有田先生の実践は、生活科を先取りした形となっている。さらに、生活科の誕生の背景の一つが、これまでの社会科が知識注入的授業であったという反省の上になっただけから考えると、当をえたものだと思う。そこで本単元の $\frac{1}{12}$ 「ポストづくり」の部分は、有田先生の実践に基づいて試みる。
- (4) 学芸会の案内状を書き、自分で切手を購入して手紙を投函することにより、手紙に興味をもたせ、正しい手紙の書き方の必要性を体験させる。また郵便局の人々の働く様子を見たり、説明を聞いたりして、これまで何も感じないで受け取ったり、出したりしていた手紙が、いろいろな人の手を通して届いていることや、自分の出した手紙を郵便局の人々が確実に、早く届けるために努力していることを感じ取らせ、道具や施設の工夫についてとらえさせたい。
- (5) 体験や活動を通して、郵便局で働く人々へ感謝の気持ちを育てたい。働く人々の苦労を知り

感謝の気持ちを持った子どもたちは、手紙を書くとき、相手のために、自分にもできそうなことを考え、できるだけ正しく、ていねいに書くようになると思われる。

(6) 局内を見学するとき、働いている人々の迷惑にならないようにすることや、説明をしていただく人々へのマナー（聞く態度・言葉使い・あいさつ）に気を付けて行動する。

4 単元の構造図



5 単元活動計画

題材名	題材目標	内容構成	時間	おもな活動と内容例
ポストを作ろう (4)	<ul style="list-style-type: none"> ◦ポストを見直す必要感から追究することができる。 ◦道具をうまく使ってポスト作りができる。 	③公共物の利用 ⑧物の製作	1 3	<ul style="list-style-type: none"> ◦ポストについて知っていることを書く。 ◦ポスト作りをしながら、ポストについて考え合い見方の不備な点や不明な点を明らかにしていく。 ◦ポストを見直してグループでポスト作りをする。 ◦ポストじまんをする。 ◦ポストを使って遊べないだろうか。 ◦ポストのほかに使うものを郵便局で調べよう。 ◦せっかく局へいくのだから案内状を書こう。
学芸会の案内状を出す (2)	<ul style="list-style-type: none"> ◦手紙が届くために約束があることがわかり書くことができる。 ◦探検の視点をたてる。 	⑤情報の伝達	2	<ul style="list-style-type: none"> ◦学芸会の案内状を書く。 ◦郵便番号、宛名、差出人、住所がきちんと書けたか調べる。 ◦自分の書いた案内状はどんな手順でうちのの人に届くのだろうか、また道具はどんなものだろうか予想し、探検の視点を立てる。
郵便局探検をしよう (2)	<ul style="list-style-type: none"> ◦局を訪ね働く人々の様子を知り、ごっこに必要な道具がわかる。 ◦あいさつができる。 	④公共物の利用 ⑩基本的な生活習慣	2	<ul style="list-style-type: none"> ◦郵便局にはいろいろな仕事があることがわかる。 ◦局で働く人々の工夫や苦労に気づく。 ◦郵便ごっこに必要な道具がわかる。 ◦マナーや聞く態度に気をつけて探検できる。
2人きょうのびのきょう (3)	<ul style="list-style-type: none"> ◦局をひらく計画をたて準備ができる。 ◦局をひらいて局の仕事ができる。 	⑧物の製作 ⑤情報の伝達	1 2	<ul style="list-style-type: none"> ◦自分たちで郵便局をひらく計画を話し合い準備する。 スタンプ カバン かご はがき 区分けだな 切手 その他 ◦郵便やさんごっこをする。 集配の仕事 切手やはがきを売る人 その他
手紙のお礼の手紙を書く (1)	<ul style="list-style-type: none"> ◦お礼の手紙を書く事ができる。 	⑤物の製作 ⑩基本的な生活習慣	1	<ul style="list-style-type: none"> ◦正しい手紙の書き方がわかりお礼の手紙を書く。 ◦自分で手紙を書いてポストに入れる。

援助並びに留意点	評価の観点（評価の方法）	関連準備
<ul style="list-style-type: none"> ◦知っていると思っていたことが、実は知らないのだ、ということに気づかせるために書かせる。 ◦いいかげんにポストをみていたな、本物を見直して、いろいろなものを使って本物らしく作ろうという意欲をもたせる。 ◦作ったポストを遊びにつかうように仕向け、郵便局見学への意欲をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ポストを見直す必要感を持つことができたか。（観察・座席表） ◦ポストの工夫や仕組みを見い出して、ポスト作りができたか。（作品） 	郵便物 画用紙 ケント紙 ダンボール ガムテープ 他
<ul style="list-style-type: none"> ◦いっしょうけんめい練習している学芸会への案内状を送って、家の人に見てもらいたいという意欲をもたせ手紙が書けるようにする。 ◦確実に届くために気をつけている点に視点を向けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦手紙を書こうとする気持ちを持ったか。（観察・座席表） ◦郵便番号・宛名・住所が書けたか。（手紙） ◦確実に届くために気をつける点がわかったか。（手紙） 	郵便番号帳 住所録
<ul style="list-style-type: none"> ◦見学の視点をしっかりもたす。 ◦郵便ごっこに使う道具作りの必要性和必要なものを収集しようという態度を養う。 ◦挨拶や見学態度に心配りをさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦働いている人々の工夫や苦勞に気づいたか。（質問紙） ◦集配、区分けなどの仕事があることがわかったか。（質問紙） ◦話している人を見て、聞いているか。（観察、座席表） 	フラッシュカード 切手代
<ul style="list-style-type: none"> ◦見学したときのことや、既有経験から開局に必要なものを、グループごとに相談し、準備させる。 ◦よごさないで、早く、確実に届る工夫や苦勞に目を向けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦郵便ごっこに必要なものがわかり準備することができたか。（作品） ◦郵便やさんの工夫や苦勞がわかり、早く確実に届けることができたか。（観察、座席表） 	フラッシュカード ポスト画用紙 色紙
<ul style="list-style-type: none"> ◦ていねいに、読みやすい字で書かせる。 ◦感謝の気持ちが現れ、書き方がわかる。 ◦切手を買って正しい場所にはり、出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦読みやすい手紙が書けたか。（手紙） ◦手紙の書き方出し方がわかる。（手紙） ◦切手の買いポストに入れたか。（観察） 	びんせん 封筒 おかね

6 活動計画案

活動計画 2 ($\frac{2}{12} \cdot \frac{3}{12} \cdot \frac{4}{12}$)

- (1) 題材名 ポストを作ろう
 (2) 本時のめあて 道具をうまくつかって、本物らしいポストを作らせる。
 (3) 展 開

時間	子供の姿	予想される活動	援助並びに留意点	関連・準備
5		1 本時の活動を話し合う。	・見直してきたポストを早く作りたいという意欲を持つようにさせる。	? マークのポスト
90	身の回りの物に関心を持つ子	2 本物らしいポストを作る。	・4人グループで作らせる。 ・材料はそれぞれのグループで自由に持ってきたものを使用させる。 ・教師も必要と思われる材料を用意する。 ・まちがったことをしても教師は指摘しないように配慮し見まもる。 ・安全に気をつけて幾度も本物のポストを見に行つてよいことにする。	ダンボール 色画用紙 セロテープ ガムテープ (赤 他) 石(おもり用) ホッチキス マジック
20	仲間と協力して片付ける子	3 道具や紙屑などを片づける。	・持ち物を整理し片づける。	絵の具 クレヨン はさみ カッター ナイフ
20	ポストを製作した喜びの持てる子	4 ポストじまんをする。 ・本物らしくできているところ ・工夫したところ	・各グループのポストをくらべて、本物らしくできているところを見つめるようにさせる。	各グループのポスト
		5 郵便ごっこの計画をたてる。 ・郵便ごっこで使うものを話し合う。	・でき上がったポストを使って郵便ごっこへ活用させるようにする。 ・意欲的に調べる視点に結びつける。	
	見通しを立てる子	6 どんなものを使って、どんな仕事をするか、郵便局へ行って調べよう。		
		7 郵便局へ行くのだから学芸会の案内状をだそう。	・意欲的に、案内状が書けるようにする。	

7 授業の実態

教材	指導内容	留意事項	授業メモ
ポストを作ろう(1) 一月十二日(木)	<p>① ポストについて知っていることを画用紙に書く。 ② 7ポストを作る。 ③ ポスト作りの計画をする。</p> <p>活動計画1</p> <p>活動1の①</p> <p>郵便局 郵便物 ポスト</p>	<p>・いいかげんにポストを見ていたな、本物を見直して本物らしく作ろうという意欲を持たせる。</p> <p>活動1の②</p>	<p>活動1の②(？ポスト)</p> <p>・ポストなんてかんたんと思っていた子が多い。 ・役所口はどの子も書いてあるが浦添では見られない二口が多い。 ・知ってるはずのポストが？ポストになっておかしがっている。</p>
② ③ 一月十三日(金)	<p>① ポスト作りをする。 ・本物のポストを調べて作る。 ② ポスト目ままん大会をする。 ③ ゆうびんごっここの計画を立てる。 ④ こっここで使う道具をしらべらるため、ゆうびんまよくへ行くことを話し合う。</p> <p>活動計画2</p> <p>活動計画2の①(ポスト見学)</p>	<p>・本物らしいポストを作る。 ・作ったポストを遊びに使うように仕向ける。 ・郵便局見学への意欲を持たせる。</p> <p>活動計画2の②(ポストじまん)</p>	<p>・程度も本物のポストを見ながら作っている。 ・郵便自動車や切手などを作っている子もいる。 ・本物らしくできている所を誇らしげに発表する。</p> <p>活動計画2の①</p> <p>活動計画2の②</p>

2の2 ゆうびんきょくをひらこう 9) 10) 11) 一月十五日(水)

活動計画5
① 郵便局を開く計画をし
て準備する。
② 郵便ごっこをする。

2の2 郵便ごっこ

2の2 郵便ごっこ

活動計画5の①

2の2 郵便ごっこ

2の2 郵便ごっこ

活動計画5の②

2の2 郵便ごっこ

2の2 郵便ごっこ

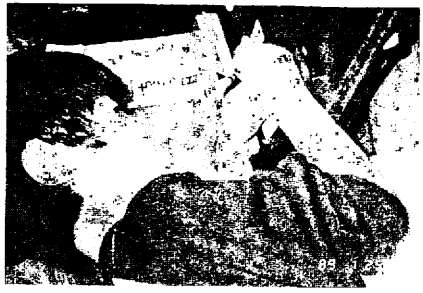
・問局に必要なものを、グループごとに相談し準備させる。
・よささないで、早く、確実に届ける工夫や苦勞に目を向けさせる。



活動計画5の2

・ここに必要なる事項を物・人・場所の面から整理する。
各グループで相談できた
・自分たちで計画立てるので満足気である。
・つい教師がひっぱっていかうとしてしまう。

活動計画6
① ② 自分で書いた手紙をポストに入れる。



2の2 郵便ごっこ

2の2 郵便ごっこ

活動計画6の①

・ていねいに書かせる。
・感謝の気持ちを表せる。
・切手を買って貼って出す。

2の2 郵便ごっこ

2の2 郵便ごっこ

2の2 郵便ごっこ

2の2 郵便ごっこ

・敬語の使用をどうするか、指導内容に入れるかどうか課題である。

12) 一月十六日(木)

8 授業メモと評価

単元名：2の2ゆうびんきょく				平成元年1月12日～26日		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> 手紙を書くことができ、遠くの人に必要なことや、自分の気持ちを伝えることができる。 自分の手紙を、郵便局の人が確実に届けてくれる苦労や工夫がわかる。 郵便ごっこをして、伝達手段としての手紙に関心を持つ。 				単元構成	<ul style="list-style-type: none"> ポストを作ろう 案内状を書こう 郵便局探検 2の2郵便局 お礼の手紙
	指 導 過 程				期 日	授 業 メ モ
時	教材	指 導 内 容	留 意 事 項			
1	ポストを作ろう	活動計画1 <ul style="list-style-type: none"> ポストについて知っていることを画用紙に書く。 ?ポストを作る。 ポスト作りの計画をずる。 	<ul style="list-style-type: none"> いいかげんにポストを見ていたな、本物を見直して本物らしく作ろうという意欲を持たせる。 本物らしいポストを作る。 	1	<ul style="list-style-type: none"> ポストなんてかんたんと思っていた子が多い。 投函口はどの子も書いてあるが浦添では見られない二口が多い。 	
2		活動計画2 <ul style="list-style-type: none"> ポスト作りをする。 		13		
3		活動計画2 <ul style="list-style-type: none"> ポスト自慢大会をする。 郵便ごっこの計画を立てる。 ごっこで使う道具しらべのため局へ行くことを話し合う。 		1		<ul style="list-style-type: none"> 知っているはずのポストが?ポストになっておかしがっている子もいる。 幾度も本物のポストを見ながら作っている。 郵便自動車や切手などを作っている子もいる。 本物らしくできている所を誇らしげに発表する。
4				<ul style="list-style-type: none"> 作ったポストを遊びに使うように仕向ける。 郵便局見学への意欲を持たせる。 		
5	案内状を書く	活動計画3 <ul style="list-style-type: none"> 学芸会の案内状を書く。 郵便番号・宛名・差出人・住所をきちんと書く 手紙の届く手順や、局で使われる道具を予想し探検の視点を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 書いて送った手紙がまた見られるように家の人に出す。 確実に届くために気を付けている点に視点を向けさせる。 	1	<ul style="list-style-type: none"> 自分の住所や、父母の名前がわからない子がいる。 おまわりさんがポストから集めると思っている子もいた。 	
6		<ul style="list-style-type: none"> 郵便局のいろいろな仕事を見る。 局で働く人々の工夫や苦労がわかり、ごっこに必要な道具を調べる。 マナーに気を付ける。 		17		
7	郵便局探検	活動計画4 <ul style="list-style-type: none"> 郵便局のいろいろな仕事を見る。 局で働く人々の工夫や苦労がわかり、ごっこに必要な道具を調べる。 マナーに気を付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 見学の視点をしっかり持たす。 道具作りの必要性と必要なものを収集する態度を養う。 あいさつや態度に注意する。 	1	<ul style="list-style-type: none"> 窓口・消印・集配の仕事に関心を寄せた。 郵便局の係へ、いろいろな質問をして、ごっこで使う道具を調べていた。 質問がしたく落ち着かないようすである。 	
8				<ul style="list-style-type: none"> 開局に必要なものを、グループごとに相談し準備させる。 よごさないで、早く、確実に届ける工夫や苦労に目を向けさせる。 		19
9	2の2ゆうびんきょくを	活動計画5 <ul style="list-style-type: none"> 郵便局を開く計画をして準備する。 郵便ごっこをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 開局に必要なものを、グループごとに相談し準備させる。 よごさないで、早く、確実に届ける工夫や苦労に目を向けさせる。 	1	<ul style="list-style-type: none"> ごっこに必要な事項を物人・場所の面から整理する。 各グループで相談できた。 自分たちで計画立ててするので満足気である。 つい教師がひっぱっていかうとしてします。 	
10				1		
11				25		
12	書紙を手紙を書く	活動 <ul style="list-style-type: none"> お礼の手紙を書く。 自分で書いた手紙をポストに入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ていねいに書かせる。 感謝の気持ちが表示せる。 切手を買って貼って出す。 	1	<ul style="list-style-type: none"> 敬語の使用をどうするか、指導内容に入れるかどうか課題である。 	
評 価	<ul style="list-style-type: none"> 多くの子が手紙を書くことができる。 見学やごっこ遊びを通して局の工夫はよくわかっているが苦労についてはとらえかたが弱いあて名をきちんと書かないと困ることはほとんどの子が知っている。 ごっこをして郵便業務や手紙へ関心が高まっている。 		授業時数	小計		<ul style="list-style-type: none"> 12時間計画し実践したが、国語科の書写との関連を図る必要がある。 (手紙の書き方やはがきの書き方)
				累計		

Ⅵ 研究の成果と今後の課題

「自ら学びとる力の基礎につちかう生活科のあり方」について、研修を深めてきた。その中で「どうすれば生活科の授業になるのだろうか。」と考えたり、「これまでの社会科との関連はどうなるか」と思い悩んだこともある。そんな時、仲地重夫先生・金城武夫先生からいただいた資料や、池田博暁先生に拝借した本・研究先進校の実践体・急きょ取り寄せた生活科についての本等をむさぼり読み、大手町小学校をお訪ねしたりした。そのうちに社会科と同じように見えても「活動内容の重点の置き方を、“自分”の立場へ180度発想の転換を図った授業をすればよい」という確信をつかむことができた。

実践授業では「2の2ゆうびんきょく」を取り上げてみた。その中で言えることは「子どもが伸び伸びと活動できる。」ということである。低学年の子が熱中できる生活科は、意欲的に取り組むので、やはり「自ら学びとる力」につながる教科と言えよう。生活科については、まだ実践していない教科のせいが苦しい研修であった。このように、大人でも体験していない事柄については困難である。ましてや、幼い子に「体験的な活動」が必要であることは論をまつまでもない。

○ 研究の成果

- ① 生活科と、社会科との相違点らしきものがつかめ、「体験的な活動の大切さ」がわかった。
- ② 幼稚園へ足を運ぶようになり、幼稚園と小学校低学年との関連の大切さがわかった。
- ③ 生活科は「自己教育力の基礎」となり「自ら学ぶ力」を育てる基礎となることがわかった。

○ 今後の課題

- ① 生活科の主旨にそった評価・評定のあり方。
- ② 生活科を基盤にした、図工や体育・国語等との合科のあり方。
- ③ 子どもが自らの意志で選択でき地域の実態に即した学習計画の立て方。
- ④ 社会科で育てていた「資料活用能力」を生活科でどう育てるか。
- ⑤ 活動の「場」や消耗品などの「経済的うらづけ」・「幼稚園との連携」をどう整えるか。
- ⑥ 地域の学習とも言える生活科を進めるための父母・自治会・老人会との連携のあり方。

これらの課題は、実践研究を積み重ねるなかで解決して行かなければならない事柄である。

この度の研修は、研究所の所員・仲西昌秀先生・琉球大学附属小学校副校長仲地重夫先生・上越市立大手町小学校・宮城小学校の先生がたをはじめ多くの方々に支えられ進めることができ、仲地先生考案の「授業メモと評価様式」は格別のご好意により、活用させていただいたものである。

研究所を修了するにあたり西里良輝所長・大城昌周主査を始めご指導くださった諸先生がた、お世話いただいた金城さん・慶田元さんに深く感謝申し上げます。

<主な参考文献>

- | | | | |
|---------|--------------------|---------|-------|
| 有田和正 | 『写真で授業読む①「ポストづくり」』 | 明治図書 | 1987年 |
| 新潟県上越市立 | 『生活する力を育てる教育』 | 日本教育新聞社 | 1987年 |
| 大手町小学校著 | 『続・雪の町からこんにちは』 | | |
| 梶田勲一編 | 『生活科の構想と実践』 | 第一法規 | 1988年 |
| 大野連太郎他 | 『生活科シリーズ1 2 3』 | 中共出版 | 1987年 |
| 益地勝志編著 | 『「生活科」単元づくりの工夫』 | 大日本図書 | 1988年 |
| | 『生活科を創造する 研究実践の手引』 | 日本教育新聞社 | 1988年 |